



独立開業

角田 朗 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

今年の1月から独立開業し、年末で1年を迎えます。最近是国内の特許や商標の出願が減る一方、弁理士試験の合格者は増加しており、独立開業は無理と思われる方もおられるかもしれません。もちろん1年前は、うまく行くのか不安も色々ありましたが、まあ何とかなっています。

私は特許調査とその関連業務である鑑定や情報提供等を仕事としており、出願権利化業務は全く行っておりません。少し見方を変えると、侵害予防の調査、無効資料の調査といった権利化後の業務を担当しているとも言えます。

2. 自分の略歴

私は大学院で理論系物理化学を専攻した後、電機メーカー等で、主に半導体デバイスの研究開発を行っていました。

その後、母の病気もあり千葉県にUターンしましたが、近くに半導体関連の研究所等はなく、やむなく？特許調査会社に就職することにしました。35歳の時です。弁理士試験勉強を始めたのもこの頃です。特許関係の仕事であれば、エンジニア経験を生かせ、都内で仕事が見つかりやすいという、どちらかというところ消極的な理由からでした。

この時、特許事務所へ就職することも考えたのですが、コンピュータを使って調査することが向いていると感じたこともあり、特許調査会社へ入社しました。もし、この時点で特許事務所へ入所していたら、今も事務所に勤務し出願権利化業務を担当していたはずで、独立開業はしていなかったでしょう。つまり、この時の選択が人生の分岐点だったことになります。

調査会社に数年勤務した後は、大手特許事務所の

調査部門へ入所し、調査を担当する傍ら、顧客向けセミナーの講師も担当しました。部門の弁理士が自分一人だったため、講師の仕事はほぼ全て引き受けることになりました。

3. 独立開業のきっかけ

独立開業すれば、経費を除いた収入はすべて自分のものになります。独立の動機は収入と思われる方も多いかもしれませんが。収入増を期待しない訳ではありませんが、一定以上の収入があれば、それ以上の収入増はモチベーションにあまり繋がらないものです。

動機は別のところにあります。事務所の同僚は特許法、審査基準等を理解しないで、侵害予防の調査や無効資料調査という権利関係の仕事をしているように見えました。しかし、事務所の調査サービスでは鑑定的な判断も期待されます。法律や判例の知識は必須です。そのようなサービスを提供するには、自分が独立してやらなければと思いました。

4. 独立開業後

今年1月に開業しましたが、2月になると依頼が来るようになり、年度末の3月はほとんど休みのない状況でした。4月、5月はあまり仕事が多くありませんでしたが、その後はますます仕事が増えて、土日に仕事をする場合もあります。人も採用しました。

特許調査担当で特許に詳しい方は少ないため、当初はひよっとしたら上手く行くかなという程度だったのですが、予想以上に依頼があり驚いています。知り合いが紹介や依頼をして下さることもあり、大変感謝しております。

日弁や稲門の人脈を生かすのはもちろん、懇親会や交流会にもできる限り参加して知り合いを増やす

ようにしています。いくら実力があっても、名前を知られていなければ受任に繋がりませんので。

もちろん良いことばかりではなく、お客さんへ調査結果を納品してから実際にお金を頂けるのは1ヶ月以上後のため、資金繰りに頭を悩ませることもあります。懇親会やデータベース使用料も意外と出費がかさみます。実務と営業との両立も難しく、今のところ訪問営業はほとんど出来ていません。

5. 終わりに

日本企業も権利を積極活用する時代となり、今後は権利化後の業務を担当する弁理士が増えてくると思います。弁理士が出願権利化以外でも活躍する時代が来ていると感じています。

以上

